

上足洗3丁目地区（静岡市）

1. 上足洗3丁目地区の概要

- ・上足洗3丁目地区 竜南学区（11自治会）の一部、世帯数647世帯、人口1,640人
町内会 5班55組で構成する旧市街地（通称おまち）
- ・被害想定 津波、土砂災害は心配ない
火災は判定5、液状化100%の地域

静岡市都心部から約2kmに位置する土地区画整理施工済みの住宅市街地。竜南学区にあり小学校までは約200mに位置。

人口は1,530人、世帯数602世帯、面積14.6haの竜南小学校区にある。

静岡県の地震被害想定では、地震災害時、震源域が直下型の場合「震度7または6強」で「液状化可能性大」の区域がある。

過去には、水害の被害も受けているが、静岡市内では比較的危険度の低い地域である。



出典 Google Map

2. 組織化の経緯と活動概要

■組織化の経過

H9～	佐藤氏が竜南学区の防災委員になる 自主防災組織はあるが学区の意識は低く、町内会相互の連携も活動もない ⇒11町内会を集めた防災組織をつくりたいと考えたが賛同得られず ⇒上足洗3丁目地区を学区の防災モデルにしたい ⇒町内会費を活用しながら防災の資機材、備蓄をそろえる あわせて町内での資器材を活用した個別訓練を佐藤氏が継続
H26. 7	ともに「ふじのくに防災士」である佐藤氏（楽縁隊隊長）と石井先生（静岡大学）が町内の防災組織化を構想（熱意あるキーマンと専門家の出会い）
H26. 9	町内のコアメンバー（ブレン）を集め組織づくりに取り組む 佐藤氏の長年の防災活動により佐藤氏を支援したいメンバーが集結 （相互の信頼感と相互扶助の意識）
H26. 10	楽縁隊組織の立ち上げ（初回の楽縁隊例会） 設立当初は町内の中の自主的な組織（特に位置づけなし） 内閣府の地区防災計画モデル地区への申請
H26. 11、12	第2回例会、第3回例会等月1回の例会を開催 楽縁隊が町内会の組織として認知される合意形成
H27. 1	町内会組織の「防災対策班」として正式に認知、位置付けられる

3. モデル地区採択後の活動状況

■課題

採択後における課題としては、おおきく4つ、以下のようにまとめることができる。

- ① 地区の防災ために実際に活動できる組織体制づくり
- ② 町内の任意の組織から内閣府の支援を通して正式に位置づけられた組織への昇格と認知
- ③ 有効性があり地区住民の目にも見える成果の達成
- ④ 今後も継続的に活動できる仕組みづくり

■課題の解決

上記の課題に対して、具体的な活動を通して解決を図りつつ、活動を充実させ、成果をあげてきた。

- ① 組織体制づくりとして、組織強化として、活動のための班組織をつくり、それぞれのリーダーが分担してあたるとともに、女性班の創設を検討した。
- ② 組織の位置づけとしては、発足から班組織構成とリーダーを配置し、月1回の例会開催や対住民への研修会の開催、具体的な行動を示すことで、正式な庁内組織「防災対策班」として認知・位置付けられた。
- ③ 具体的な活動の成果としては、自治会と連携して町内の要援護者名簿と「絆マップ」を、直接訪問や住民の支援を通して数か月間で作成した。
- ④ さらに、半年ほどの活動の中で、活動の中心的リーダー（隊長）とそれを支援し、実際に活動する班のリーダーが構成され、そこに防災の専門家が活動をリードし自らの地域の課題解決と成果をあげる仕組みをつくりだしました。

■楽縁隊の活動

・平成26年10月4日（第1回例会）・・・発足

「わが街3丁目楽援隊」発足、基本的な目標や考え方を確認

目標 上足洗3丁目町内会の防犯・防災地区計画づくりを通じて
静岡で一番安全・安心なモデル地区「わが街3丁目」になる。

基本的考え方 ①楽しく明るく元気な「わが街3丁目」
②住民みんなが参加し支援しあう「わが街3丁目」
③地域の企業が貢献する「わが街3丁目」

8つの活動 ①災害に強い ②犯罪の無い ③事故の無い ④いつまでも活動の場がある

目標 ⑤弱い人を優しく支え合う ⑥地域の難問解決が得意な

⑦女性パワーと若者が輝く ⑧毎月楽しい行事がある 「わが街3丁目」

・平成26年11月15日（第2回例会）・・・組織化

「わが街3丁目楽縁隊」（地縁を大切にする楽しい会）に改名

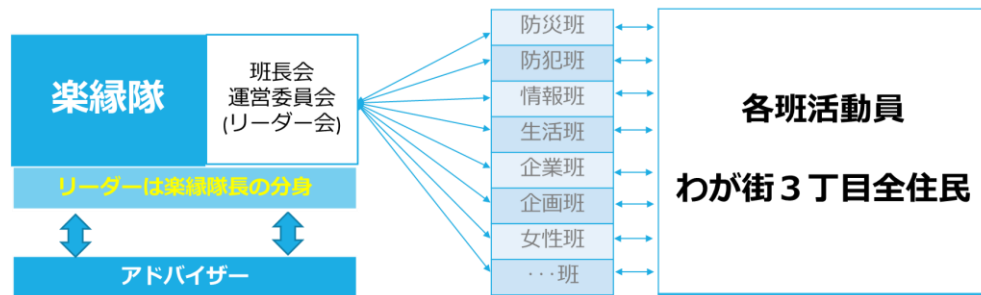
組織における班構成の確認と重点的に取り組む事項の検討

⇒班ごとのリーダー決定と女性班の創設を検討

⇒今後の活動の重点は災害時の要援護者の名簿づくりと方針を決める

やれる人がやれるところから
まず、防災名簿づくりに取り組む

…活動班組織（案）…



班構成

- ・平成 26 年 12 月 27 日（土）（第 3 回例会）・・・要援護者の名簿作成①
「名簿づくり」の状況について
 - ・町内会の中に「わが街 3 丁目楽縁隊」があるため、町内会が支援
 - ・民生委員も参加して名簿づくり
 - ・各戸の配置図と名簿を班のリーダーが作成中
 - ・コアメンバーである法人が町内の法人会員を取りまとめ＝社会貢献として参加

- ・平成 27 年 1 月 24 日（土）（第 4 回例会）・・・要援護者の名簿作成②
 - ・防災実技訓練について
 - ・災害時要援護者名簿作成のための個別訪問について

- ・平成 27 年 2 月 21 日（土）（第 5 回例会）
 - ・静岡県地震防災センター見学の結果報告
 - ・3 月の発表会に向けて振り返り
 - ・今後の活動計画

4. モデル地区の成果

■成果

成果は、これまでの隊長の単独での防災活動から、町内のメンバーの協力と協働による組織化と、そして迅速な活動であり、要援護者名簿である「絆マップ」の作成を行い、自らの手で作成しました。

単にマップを作っただけではなく、そこには直接住民と触れ合うことにより、住民から感謝される組織・人となり、それが活動のインセンティブへとつながっています。

上足洗3丁目絆マップ



5. モデル地区における今後の活動予定

今後の活動予定としては以下のように考えられている。

(1) 防災活動の体制（要援護支援班「見守り隊」の編成）

- 平成27年度から、楽縁隊メンバー等の**元気なシニアを中心に**、正式に町内会組織として「**安全・安心委員会（仮称）**」を設け、新たな体制を作る。
- 多くの町内会員に参加を呼びかけ、「要援護支援班」の編成により各種の活動計画を作成する。さらに、防犯・防災を契機として**親密なコミュニティ作り**に着手する。

(2) 平常時の活動・(3) 発災直前の活動

- 班別に、安全・安心対策の「見守り隊」を編成し、災害時と共に**平時における災害弱者の見守り支援**対策を実行し、災害時のための訓練を重ねる

(4) 災害時の活動

- 班別の支援隊によって要援護者の**安否を確認**し、対策本部に連絡するとともに、**避難地、避難所への誘導**を支援する（火災等の**2次災害を出さない**）

(5) 復旧復興期の活動

- 避難所での要援護者の生活を支援し、いち早い**帰宅へ向けて援助**する

(6) 市町村等、消防団、各種地域団体、ボランティア等との連携

- 実態に即した支援を行うために**民生委員**等関係機関との連携を密にする